

LP12を世に送り出した アイバーの執念です

竹田(以下TK) AKURATE CD、音を聴いて凄いのによくわかったーだけで、何がどう凄いですか？シルバードイスクエンジンってつまるところ何ですか？

藤井(以下F) シルバードイスクエンジンは、LINNが自社で作っているDISC読み取りメカのことです。何が凄いて、自社で作れる技術を持っているということが凄いの。CDのメカを自社で作れる会社は数少ないんだよ。

国内で言えば、DENON、TEAC、ACCUPHASEとか。

海外で言うと、PHILIPSにLINN。それは多数ある中の一握りだからね。

TK 確かに自作オーディオ派の人も、「プレーヤーばかりは難しくてね」って皆さんおっしゃいますね。

F そう。以前は海外製品のほとんどのプレーヤーのメカはPHILIPS製で、その後の音声回路のキヤラクターの違いがメーカーの音の違いだったんだよ。そんな頃「デジタル否定派」と目されていたLINNがKARIK(注1)を一から作って製品として発表したのが今から15年前。LINNはLP12(注2)と同様にCDプレーヤーも一から作ることに取り組んだんだよ。それって結構凄いと僕は思う。

TK LP12を世に送り出したアイバー(注3)の執念です。もしくは音に対する確固たる自信。以前何かの本で読んだのですが、ミケランジェロには大理石の中に埋まっているピエタやダビデの姿が見えていて、どの彫像も石の中から掘り起こしていただけだった、とか。ここ最近のLINNの製品、とくにLP12のSEアップグレ

ード(注4)や、今回のAKURATEシリーズには、同じことが言える気がする。あるべき音楽の姿を読んでいるだけ。

「こういう音を作ろう」と思って取り組んだら、ああいう音は出ないと思う。

F 確かにね。新製品のAKURATEには35年にわたったLP12で勝ち得た概念がしっかり反映されているし、それがLINNの音づくりの基本姿勢なんだろうしね。簡単に言ってしまうと、LINNのキヤラクターとして「軽量であること」は一つの大きな支柱だと思うんだよ。

今こそ「軽いこと」がネックになることは無いけれど、重量級のオーディオが幅をきかせていた時代に、LINNのような製品の作り方には随分否定的な意見もあったみたいだし、常識を覆すのは、今となっては成功を治めていても、初めは随分パワーの要ることだったんじゃないかな。

ただ、重量級も出揃ってほとんど機材が重くなる中で、真逆の発想を持ったLINNは出るべくして出た存在だったんじゃないかとも思うよ。まあ、何でも最初にやるってことは凄なことだよ。

自分たちの作るものに 完璧に責任を持ちたい

TK ところで、話が脱線しましたけれど、一つ質問！自社メカを作れるメーカーが少

サウンドクリエイト流 LINN AKURATE CD 解体新書 vol.1

LINNから新発売のSACDプレーヤー「AKURATE CD」。
削り出しのトレーが戻ってきた！LP12の「LINN」、初の2ch SACDプレーヤー！シルバーディスクエンジン搭載！
LINNファンの嬉々とした歓声を横目に「何となくは知ってるつもり」「自分のシステムで聴いたたことはないけれど」と言う人へ、まずは1ヶ月付き合ってみた当店からレポートです。気になったら、まずは「試してみてください」

F ところで竹田さんから見てAKURATE CDのお客様の反応はどう？僕のイ

アイバー「ローカル」なメンタル

UNIDISK(注6)がベースになっているからね。ただ、UNIDISKから映像回路を抜いたものと言っても、CD・SACD・DVDとユニバーサルなディスク対応になっているものから映像基板をただ抜いた、というような簡単なことではなくて、メカのこの部分、あの部分という具合で回路やソフトウェアを改めて検討していくわけだから自社で作ってなかったらそう簡単には触れない部分な訳ですよ。

TK じゃあ、シルバードイスクエンジンで、イコールLINNの音楽に対する責任の表れみたいなものですね！



- 注1) LINN初のCDプレーヤー。1991年発表。自社メカによるCDトランスポート。製品化に8年かかったとか。根性です。
- 注2) SONDEK LP12。LINNがLINNである由縁。35年経てなお現役で愛され続けアナログプレーヤー。世の中に10万台出ているという。幸せを知る人の数は多ければ多いほどいいと思う。
- 注3) アイバー・ティーフェンブルン。LINNの創設者。この人がいなければ、今どんなもので音楽を聴いているのだろうと思わずにいられない。
- 注4) 2007年1月リリースのサブシャーシ「KEEL」、最上位トーンアーム「EKOS SE」、進化した底板「TRAMPOLIN」。LP12のここまでのアップグレードはLINN始まって以来。機構の根幹に手を入れた、その精神がすごい。
- 注5) UNIDISKのソフトウェアが改良された時、既にお使いの機器には、無償のアップグレードのサービスが施された。ディスク読み取りに関する改良でしたが、操作性のみならず、音質の向上にも貢献するもので驚いたのなんの。
- 注6) ユニバーサルプレーヤーのシリーズの総称。「1.1」と「SC」の2機種あり。発売当初は様々なディスクへの対応力が万全とは言えず、弊店でもお客様にご迷惑をおかけしました。今は(注4)の改良もあり、問題ありません。
- 注7) フラッグシップのCDプレーヤー「SONDEK CD12」。その鮮烈なデビュー以来聴き手に驚きと感動とたくさんのもをもらし、様々な伝説を作り、2005年に生産完了した銘器。
- 注8) 2005年発売のアクティブスピーカー。フラッグシップKOMRIの後に続くモデル。ウーファーのみアンプ搭載のバッシブと、全帯域アンプ搭載の2機種あり。



イメージでは、かなり「キてる」感じだけども、TK いや、それに関しては言うまでもないことです。私なんて聴き惚れてお客様と一緒に興奮してしまいました。

CD12(注7)をお使いのHF様、始めは「僕には必要のないものですが、まあ話の種に聴いてみましょう」なんて余裕を見せていたのに、聴いた途端に「何これ！？」って。あんなに慌てた姿を拝見したのは多分ARTIKULAT(注8)が出た時以来です。結果的には「CD12とこれを持っていれば幸せかな。」という結論を出されたようです。

F CD12が発売された当初は300万近くもするCDプレーヤーなんて存在してなくて、アナウンスを知ったときはそんな値段のプレーヤー誰が買うんだ！って思ってたよ。いざ製品が手元に届いて聴いてみたら、LINNが魂込められているのを感じたし、これは本物だということがわかった。ただ、価格の面でも、また残念ながら生産完了になってしまったという点でも入手の困難なものだし、そういう意味ではCD12後のLINNとして、やっとそのレベルのものがない般化したのかなと思う。HF様がいい例だね。

TK ただねえ、UNIDISKとデザインが全く変わらないというのには……。

F まあ、でも削り出しのトレーが戻ってきたわけだし。僕はAKURATE CDは名機として後に残るものになると思うよ。TK そうですね、切り替わりますか？うーん、確かに音は非の打ち所がないと思う……。(次月号に続)

SOUND CREATE www.soundcreate.co.jp

〒101-0021 東京都千代田区外神田3-10-3 プライム秋葉原ビル
営業時間/PM 12:00 ~ PM 8:00 (土日・祝日/PM 12:00 ~ PM 7:00)

お取り扱いブランド

- <ビュオーディオ> LINN/PIEGA/TRIGON/OCTAVE/ANTHONY GALLO/ATC/Mclntosh/YG ACOUSTICS /ORTOFON/DENON /BOULDER/AYRE/GERMAN PHYSIKS/AURA
- <ホームシアター> LINN/ANTHONY GALLO/AMX/FUJITSU GENERAL/STEWART/KIKUCHI/SHARP/LUTRON/VICTOR/MARANTZ
- <アクセサリ> Sound Mechanics/FAST AUDIO/FREA/QUADRASPIRE
- <家具・インテリア> QUADRASPIRE/TABULARASA/FLOS

フリーダイヤル/0120-62-8166
定休日/火曜日(祝日を除く)

